

1. 粘液のう胞とは

口の中の粘膜には小唾液腺という、唾液（粘液）を作り、粘膜を保護する器官があります。これら唾液腺のパイプがふさがってしまい、唾液がうまく出ていかず、隙間に漏れだした粘液が貯まってくると、粘膜が盛り上がったように見えます。これを**粘液のう胞**といいます（図1）。



図1 下くちびるにできた粘液のう胞（左図）と舌にできた粘液のう胞（右図）

若い年齢でよく発生し、下くちびるの内側や舌の裏によくみられます。一般的に痛みはありません。**原因の多くは**誤って下くちびるやほほを噛んだり、歯ブラシやかたい食べ物などで口の中を傷つけたりしてできます。**思い当たる場合は粘膜を傷つけないように気をつけてください。**大きさは直径1cm程度にまで大きくなります。つぶれて小さくなることもあります。表面の傷が治るとまた唾液が貯まり、腫脹を繰り返すことがあります。腫脹部に歯が当たりやすい方はその傾向が特に強いようです。また、小さなお子さんは気にして常に触ったり、噛んだりして、なかなか小さくならないことがよくあります。何度も腫脹消退を繰り返すと、粘膜と唾液を貯留している組織がくっつき、以前より固く大きくなる場合もあります。

2. 治療方法

初診時に切ることはありません。当然、小さなお子さんの場合、のう胞を切ることを嫌がるケースがほとんどです。くちびるを噛んだり、触ったりする癖があると、せっかく粘液のう胞を取っても、またできてしまいますので、**初診時は外から刺激をしないようご家族とお子さんに指導をします。**小さなお子さんの多くは粘液のう胞ができてからそれほど多くの期間はたっていません。また、新陳代謝も著しく、傷の治りも早いため、刺激を加えなかった場合、**3か月～6か月程度で自然に治る**（図2、図3）ことがあります。**来院時に粘液のう胞と診断されれば、まずは経過観察を行っていきます。**



図2 6か月で自然治癒した症例1

初診時：何か月も腫脹と消退を繰り返していた症例です。大きくなるたびに気になって噛んでつぶしていたようです。そのせいで粘膜表面が少し硬くなってきています。

2か月後、4か月後：のう胞は小さくなり、粘膜表面もきれいになってきました。

6か月後：どこにできていたのかわからない程度までになりました。再度噛んだりしないよう指導をして通院を終了にしました。



図3 6か月で自然治癒した症例2

初診時：粘膜の表面はなめらかで現在はあまり傷つけていない様子でした。

3か月後：少しふくらみはありますが、ほとんどわからないくらいになっています。

6か月後：再発はないようなので診察を終了にしました。

粘液のう胞は腫瘍（できもの）ではありませんので悪化することはありません。大きさに変化がなく普段も気にならない場合は、大きさなどの変化があるまで経過観察でかまいません。また、のう胞が2-3mm程度の小さい症例では、周囲の小唾液腺をかえて傷つけて、傷の方がのう胞より大きくなる可能性を考え、経過観察をしていきます。

3. 手術（のう胞摘出）時期

経過をみても小さくならない、粘液のう胞が大きくて日常生活に問題が出ていることがあれば、外科的に摘出することを検討します。のう胞内の唾液だけを抜いてもまた貯まってしまうことが多いため、基本的には原因となっている小唾液腺を含めて摘出します。手術日を予約していても、のう胞がつぶれたり、小さくなったりした場合は摘出を行わないことがあります。また、風邪を引いたり、体調が悪かったりした場合も処置を延期することがあります。手術時には部分麻酔を使用しますが、1時間くらい口の中がしびれ、しゃべりにくくなります。手術直後は食事ができません。麻酔がしっかりと覚めて2-3時間たつと食事ができます。手術中じっとしてられないお子さんの場合には、**全身麻酔**で手術することもあります。

4. 手術方法、抜糸

手術時間はおおよそ30分程度です。

まず、のう胞周囲に部分麻酔をします。のう胞上の粘膜を切開し（図4-a）、粘膜と粘液を包んでいる組織と腫脹の原因となっている小唾液腺を取ります（図4-b）。このとき、周囲の小唾液腺も一部取ることもあります。すべて取り終わったら、縫合し終了となります。人によっては縫合によって引きつれる感じがしたり、2-3日腫れたりします。また、できている場所（下くちびるの神経の走行に近い場所）によっては、とった場所の周囲に麻酔が残ったような感じが翌日以降も続く場合があります。

傷跡は口の中なので他人に見えるものではありませんが、大きさによっては処置後へこんだりする場合があります。また、手術直後はやや固くなることもありますが、時間の経過とともに気にならなくなります。食事は傷が治るまで（抜糸まで）柔らかいもの、刺激のないものを食べるなど、注意が必要です。歯ブラシも患部を避けるようにします。

おおよそ5日前後で抜糸をしますが、その前に強い痛みや違和感があれば診察をします。

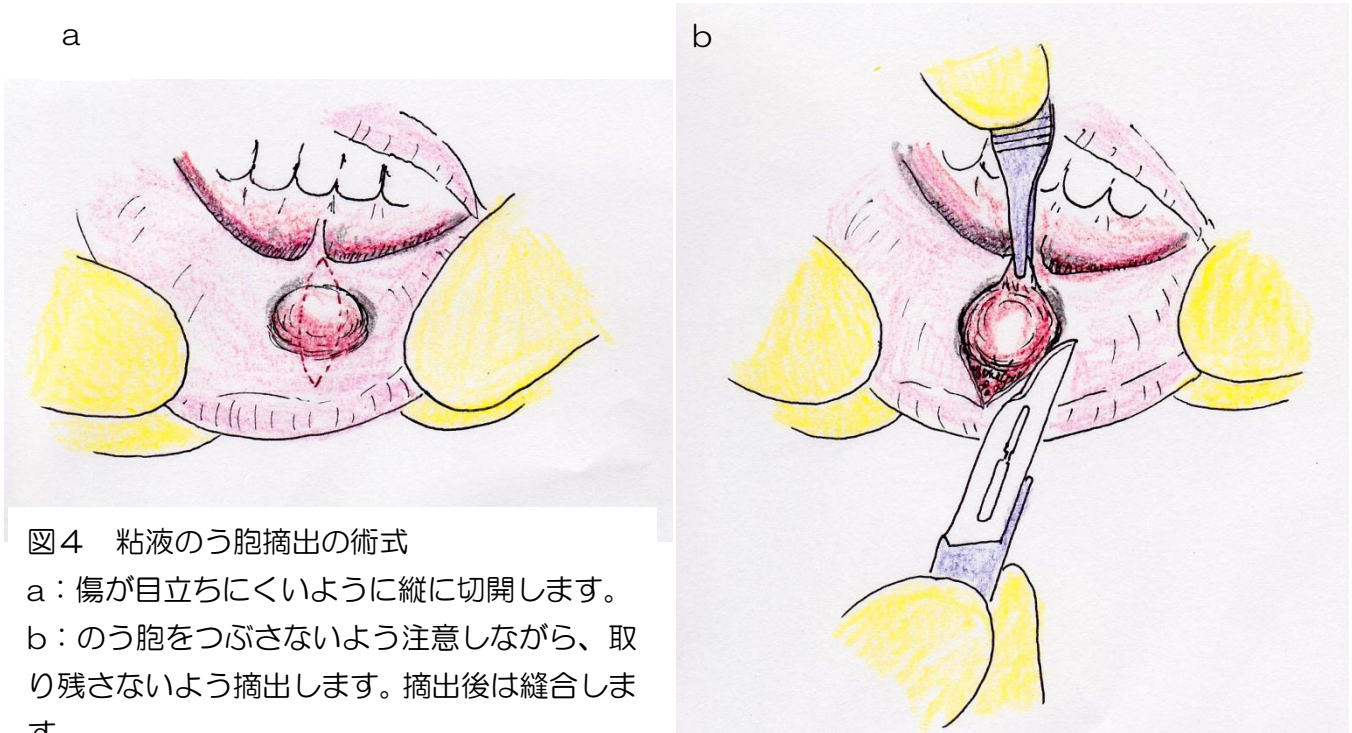


図4 粘液のう胞摘出の術式

a：傷が目立ちにくいように縦に切開します。
b：のう胞をつぶさないよう注意しながら、取り残さないよう摘出します。摘出後は縫合します。

5. 手術後の経過について

しこりが残ったり、手術した周囲にしびれが残ったりすることがあります。時間とともにしびれの範囲が小さくなるのがほとんどです。

基本的に摘出後の再発は少ないですが、ほほやくちびるを噛んでしまう癖があるお子さんは再発する場合がありますので注意が必要です。引き続きかかりつけの先生に診てもらいましょう。